



学校法人 城西大学

<http://www.josai.jp/>

東京紀尾井町キャンパス
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
TEL. 03-6238-1300

城西大学
城西短期大学 <http://www.josai.ac.jp/>

坂戸キャンパス
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
TEL. 049-286-2233

城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

東金キャンパス
〒283-8555 千葉県東金市求名1 番地
TEL. 0475-55-8800

安房キャンパス
〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1717
TEL. 04-7098-2800

次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み

大学の社会的責任を果たすために

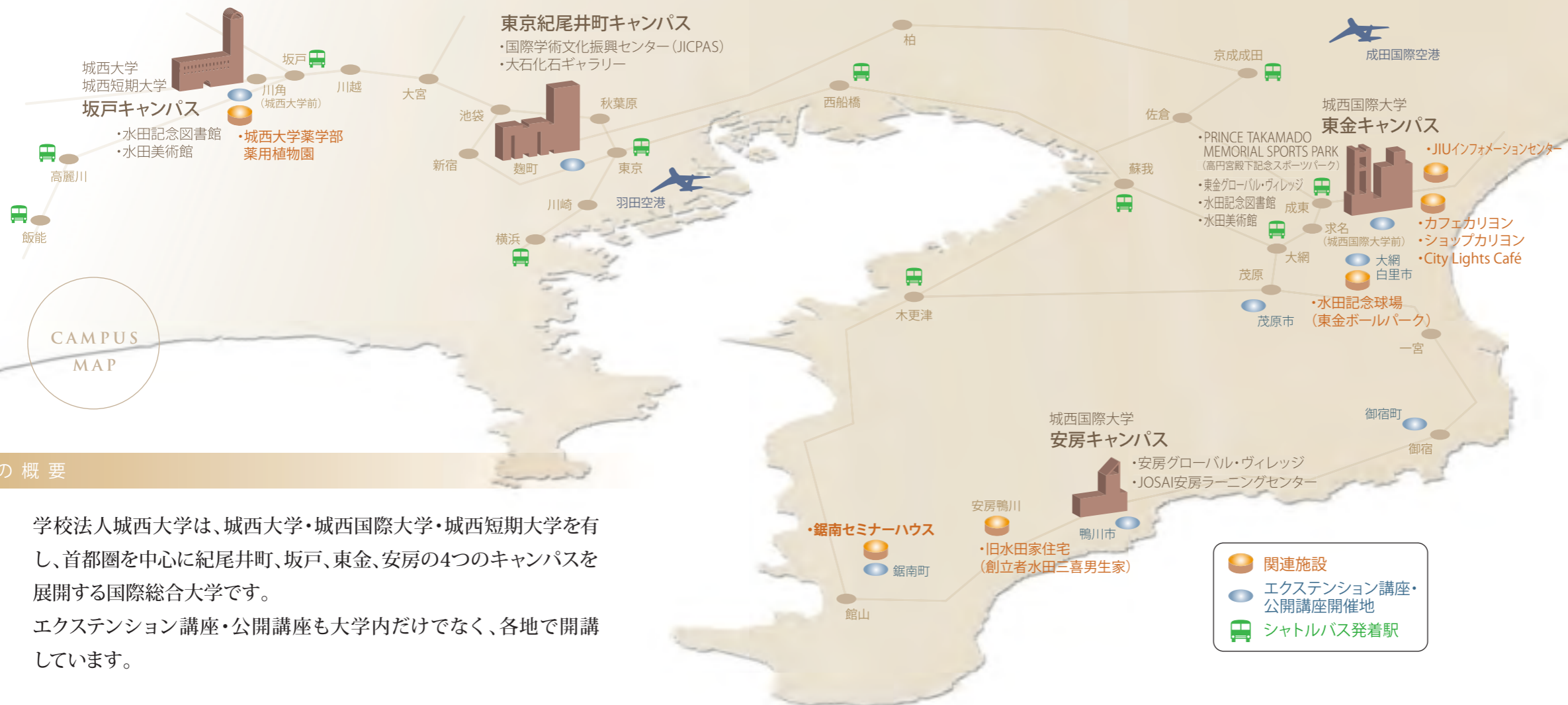
2016

JOSAI UNIVERSITY

JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY

JOSAI JUNIOR COLLEGE

学校法人 城西大学



大学の概要

学校法人城西大学は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を有し、首都圏を中心に紀尾井町、坂戸、東金、安房の4つのキャンパスを展開する国際総合大学です。
 エクステンション講座・公開講座も大学内だけでなく、各地で開講しています。

城西大学

坂戸キャンパス

- 経済学部 経済学科
- 現代政策学部 社会経済システム学科
- 経営学部 マネジメント総合学科
- 理学部 数学科
- 化学科
- 薬学部 薬学科(6年制)
- 薬科学科(4年制)
- 医療栄養学科
- 大学院 経済学研究科
(経済政策専攻修士課程)
- 経営学研究科
(ビジネス・イノベーション専攻修士課程)
- 理学研究科
(数学専攻修士課程)
- 理学研究科
(物質科学専攻修士課程)
- 薬学研究科
(薬学専攻博士課程)
- 薬学研究科
(薬科学専攻博士前期課程・博士後期課程)
- 薬学研究科
(医療栄養学専攻博士前期課程)
- 別科 日本語専修課程
- 日本文化専修課程

城西国際大学

東金キャンパス

- 経営情報学部 総合経営学科
- 国際人文学部 国際文化学科
- 国際交流学科
- 福祉総合学部 福祉総合学科
- 理学療法学科
- 薬学部 医療薬学科(6年制)
- メディア学部 メディア情報学科
- 環境社会学部 環境社会学科
- 看護学部 看護学科
- 大学院 人文科学研究科
(国際文化専攻修士課程・女性学専攻修士課程・比較文化専攻博士後期課程・グローバルコミュニケーション専攻修士課程)
- 国際アドミニストレーション研究科
(国際アドミニストレーション専攻修士課程)
- 経営情報学研究科
(起業マネジメント専攻修士課程・同博士後期課程)
- ビジネスデザイン研究科
(ビジネスデザイン専攻修士課程)
- 福祉総合学研究科(福祉社会専攻修士課程)
- 薬学研究科(医療薬学専攻(博士課程 4年制))
- 留学生別科 日本文化・ビジネス専修課程
- 日本語専修課程

安房キャンパス

- 観光学部 ウェルネスツーリズム学科

城西短期大学〈城西ベースカレッジ〉

坂戸キャンパス・東京紀尾井町キャンパス
 ビジネス総合学科

東京紀尾井町キャンパス
 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
 TEL. 03-6238-1300

坂戸キャンパス
 〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
 TEL. 049-286-2233

東金キャンパス
 〒283-8555 千葉県東金市求名 1 番地
 TEL. 0475-55-8800

安房キャンパス
 〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1717
 TEL. 04-7098-2800

CONTENTS

- 3 緒言
次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み
大学の社会的責任を果たすために

トピックス

- 5 創立50周年事業
- 6 グローバル・レクチャーシリーズ
- 8 国際交流事業
- 9 スポーツ振興

地域・社会貢献活動

- 10 子どもたちとともに
- 13 産・官・学連携
- 17 地域との交流・連携

国際社会への貢献

- 25 国際人材の育成

次世代育成 / 文化・スポーツ振興

- 26 学生の活動
- 29 文化・スポーツ・メディア振興
- 32 建築賞受賞
- 33 美術館
- 34 編集後記

各記事タイトル横のロゴマーク

: 主に城西大学関連

: 主に城西国際大学関連

の活動の紹介です。

次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み 大学の社会的責任を果たすために

2016

JOSAI UNIVERSITY
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY
JOSAI JUNIOR COLLEGE

学校法人城西大学は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を持ち、首都圏を中心に4つのキャンパス(紀尾井町、坂戸、東金、鴨川)において、大学としての社会的責任を果たすべく、次世代育成、健康推進、グローバル教育をキーワードに、大学における教育・研究に加えて、地域、社会貢献、文化振興・文化資源保存活動、国際社会への貢献など、多岐にわたって活発な活動を展開してまいりました。

城西大学は、2015年に創立50周年、城西国際大学は、2017年に創立25周年を迎えます。刻んできた歴史を大切に、さらに発展するために2016年には、幅広い教養と深い専門性を持ち、問題解決にあたる国際的な人材を育成し、アジア・世界でリーディング・ユニバーシティになることを目指すため、中期目標「J-Vision」の第二弾をスタートさせました。この目標の実現に向けて、全学一丸となって取り組んでいます。

2016年度における社会貢献活動の代表的な取り組みについて本冊子に紹介しましたので、ご覧ください。

地域・社会貢献活動 学校法人城西大学各キャンパスにおいて、地域の社会や文化・経済・教育・環境保護などに貢献する活動を幅広く行なっています。また、大学の学部や立地などの特徴をいかしたエクステンション講座を学内外で開講し、毎年多くの受講生で賑わっています。

城西大学では、創立50周年記念プロジェクトとして、地域・行政と連携して教育・研究・社会貢献を行うため、世界的に高名な講師をお招きし開催しているグローバルレクチャーシリーズ、そして「高麗川再生プロジェクト」に継続的に取り組んでいます。

城西国際大学は、1年を通してさまざまな学術シンポジウムや国際交流活動、各種の地域イベント等を積極的に展開しました。高円宮妃殿下記念スポーツパークにおいては少年サッカー大会を行うなど、地域振興に貢献しています。

産学官連携では、住友化学株式会社より、毎年「日中連携大学院」にご寄付をいただいております。今年も、3名の博士号取得者を出すことができました。

また、若者たちに絶大な人気を誇るファッションブランドであるバロック・ジャパンリミテッドとの提携を行い、これまでの日活やエイベックス・プランニング&デベロップメント社、サンミュージック等との協力関係がさらに強化されました。このように本学ならではの長所ある次世代人材育成プログラムを数多く推進しております。

さらに、政策提言活動として、本学東京紀尾井町キャンパス地下ホールにおいて「ヴィシエグラード4カ国(V4)+日本科学技術セミナー」が、外務省、V4諸国の在京大使館、本学の共催されにより開催され、今回で5回目となりました。

城西大学坂戸キャンパスに、新薬学部棟と水田三喜男記念館がまもなく完成します。また2016年に完成し入居が始まった城西国際大学の東金キャンパスと安房キャンパスにある国際留学生寮「JOSAI I-House グローバル・ヴィレッジ」には、多くの留学生や日本人学生が、国境や学部を越えて友情を培い、仲間との共同生活の中で自立心を養う場となっています。

水田三喜男記念館では、創立者の志を知るための資料を展示に加え、様々な活動が行える多目的ラウンジスペースを備えており、国際教育や地域連携の拠点として学生のみならず地域の方々にも広く開放される予定です。

なお、東京紀尾井町キャンパスは一層拡充され、現在5棟を有し、本学が取り組む「幅広い教養と深い専門性を持ち、問題解決にあたる国際的な人材育成」のさらなる強化と国際教育の充実を図っています。

国際社会への貢献 国際性・専門性を備えたグローバル人材の育成を目指して、世界各地の大学と教育ネットワークを結び、各種の国際教育プログラムを積極的に実施しています。

その中でも、本学は特に中欧ヴィシエグラード4カ国(チェコ・ハンガリー・ポーランド・スロバキア)とASEAN諸国との間の教育交流を強化しており、昨年度もこれらの地域の大学と新たに学術交流協定を締結し、国際交流を通じたグローバル人材育成に力を入れてきました。日本語を学び、グローバル企業への就職も好調です。

加えて、近年では、ASEANからの留学生も増えてきました。特に薬学部における連携は目をみはるものがあり、ハラルという新しい分野において、さまざまな教育・研究の連携が広がっており、その研究成果が、具体的な商品として市場に発売されるという実を結んでいます。

文化振興・文化資源保存活動 学校法人城西大学は、両大学に水田美術館を有し、創立者水田三喜男の浮世絵コレクションの一般公開をはじめ、地元ゆかりの画家の特別展などを催しており、多くの方々にご来場いただいております。そして、紀尾井町キャンパス3号棟には、数々の貴重な化石標本を収蔵する「大石化石ギャラリー」も開設しており、千代田区の小中高校生はもとより、多くの子供たちが楽しい学びをしています。

また、2006年にはじまった、外房と内房をつなぐ生活道路である、嶺岡林道の桜並木の修復もJIU観光学部と地元の方々と一緒に、桜並木が鋸南町まで続くよう大切に大きく育てています。

各キャンパスや施設の景観にも心を砕き、各キャンパスの建物や美術館や旧水田家住宅などにおいて、国内外で多くの建築賞・デザイン賞を受賞しています。

私どもは、これまでの地道な活動を大切にしつつ、これからも継続的に社会に貢献し、次世代に文化を伝え、人材を育成するとともに健康で豊かな暮らしを実現するために大学の「知の還元」をはかり、国内外の文化・研究交流の推進に取り組んでまいります。

本冊子を通して、学校法人城西大学の取り組みについてご理解いただければ幸いです。

2017年3月

学校法人城西大学

創立50周年事業

「水田三喜男記念国際賞」授賞式を開催しました 

2017年2月7日、学校法人城西大学は東京紀尾井町キャンパス3号棟で、創立50周年を記念して創設した「水田三喜男記念国際賞」を、伊藤若冲ら江戸時代の日本絵画の再評価に大きな貢献を果たした財団「心遠館」館長、ジョー・プライス氏に贈呈しました。

創立者の水田三喜男(1905～1976)は戦後復興に力を注ぎ、経済成長の実現や日本の国際社会での地位向上などに努める一方、義務教育費の国庫負担や私学助成等に尽力し教育振興に情熱を傾けました。「学問による人間形成」を建学の精神とし1965年に設立されたのが、城西大学でした。水田三喜男記念国際賞は、こうした創立者の日本の復興・発展に尽くした事跡に思いを致すとともに、その精神を体して、著作あるいは実践行動において、日本経済・社会・文化の活性化・発展に顕著な貢献をしてきた方を顕彰することを目的に創設しました。

ジョー・プライス氏は1929年、米オクラホマ州生まれ。87歳。オクラホマ大学工学部を卒業後、父親の会社で技師として勤務。1955年ごろから日本の絵画の収集を始めました。1963年に初来日、その後妻となる悦子夫人と知り合い、夫人の助けも受けてコレクションを充実させました。1981年に財団「心遠館」を設立。1988年にはコレクションの一部がロサンゼルスのカウンティ美術館に寄託され「ジャパニーズ・パヴィリオン(日本美術館)」がつくられました。氏の収集は個人では最大の若冲コレクションであるとともに、世界有数の江戸絵画コレクションとなりました。長い間、研究者たちに見過されてきた江戸時代の個性豊かな画家たちを発掘しただけでなく、日本における様々な展覧会にコレクションから作品を積極的に貸し出すなど、近年の“若冲ブーム”のきっかけをつくりました。

授賞式には、選考委員長の米倉弘昌・日本経済団体連合会名誉会長や選考委員の青柳正規・前文化庁長官、行天豊雄・元財務官、杉田亮毅・元日本経済新聞社社長の方々をはじめ、来賓の方々、本学の教職員ら約100人が出席。小野元之理事長代理が「プライス先生は、日本文化を世界に広めていただいた日本人にとっては恩人です。第1回目の受賞者にプライス先生を選ぶことができたことを光栄に思います」と挨拶。選考委員を代表して水田宗子理事は「戦後の復興と国際社会で評価を高めるのが創立者の大きな目的だった。(併せて)文化を大切にすることを大学の趣旨から、今回の授賞は水田三喜男の気持ちと志を反映したもので、創立者も喜んでいるのではないかと思います」と述べました。その後、水田理事からプライス夫妻に賞状や賞金、記念品が贈られました。プライス氏はプレスとの会見で授賞について、若冲絵画との出会いや収集に触れ「私は若冲とともに人生を歩んできました」などと語りました。また、2013年に東日本大震災の復興支援として被災3県で開いた巡回展について、「『ありがとう』などのメモを書いたり、涙を流しながら作品を観るのが、若い人たちであったことが印象的でした。その前の都内の展覧会でも若者たちが床にどっかり座って作品を観て、涙を流していたんです。ついに若い人たちが江戸絵画を理解する時が来たんだと感動したのを覚えています」と述べました。

この後、プライス夫妻には城西国際大学メディア学部の学生によるインタビューにも笑顔で快く応じていただきました。悦子夫人は、被災3県での巡回展について「高校生まで無料だったので、毎日来てくれた野球少年たちなど、今まで美術館に来たことのない子どもたちが観覧者だった。それが一番うれしかった」と振り返りました。



選考委員の方々との記念撮影



受賞したプライス氏

グローバルレクチャーシリーズ

「青柳正規氏講演会」を開催しました 

前文化庁長官で本学の高等人文学研究所の青柳正規特任所長による特別講演会「地域と文化」が2016年11月22日、城西大学(埼玉県坂戸市)の坂戸キャンパス清光ホールで、また11月29日には、城西国際大学(千葉県東金市)の東金キャンパス水田記念ホールで開かれました。青柳氏は6月15日、清光ホールで水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズとして「自然・人間そして科学技術」のタイトルで講演していただきました。テーマを替えた今回の特別講演を日本人学生や留学生、教職員が熱心に聴講しました。

青柳所長はギリシャ・ローマ考古学の第一人者。東京大学文学部長、同副学長を経て国立西洋美術館館長、文化庁長官を歴任されました。現在、東京大学名誉教授、日本学士院会員。2006年紫綬褒章。2011年NHK放送文化賞受賞など受賞歴多数。「エウローパの舟の家」「古代都市ローマ」「文化立国論」など多数の著書があります。

青柳所長は講演で「日本は生産資本や人的資本、自然資本で測る一人当たりの豊かさはアメリカを上回って世界一。これは教育などによって人的資源を充実させてきたためで、これからは教育を大切にしてお金を使っていけないと、豊かさを将来に持ち越すことができない。しかし、財政赤字と人口減少によって豊かさが徐々に萎む傾向にある」と日本が置かれている現状を説明しました。その上で「充実した生活によって幸せを感じるためには、文化を身近に感じながら、それを大切にする生活をつくるのが非常に重要だ」と指摘。文化芸術の持つ創造性を生かして再生したり、発展したりしている海外や日本の都市など多くの例を挙げ、「文化で何かをやらうとする時には、自分たちの地域がどんな特徴を持っている所なのかをしっかりと見極める必要がある」と述べました。

城西大学の講演の最後に、青柳所長は2020年の東京オリンピックに向けて文化庁が、日本の津々浦々の祭りや踊り、演劇などを集積するポータルサイト作りを計画していることを紹介、「オリンピックは文化の祭典でもある。2020年後には、その集積が文化的な生活をするためのレガシー、遺産になる。ぜひ若い皆さん一人ひとりが、2020年の文化オリンピック、文化を盛り上げるオリンピックにも参加してほしい」と呼びかけました。

また、城西国際大学では「みなさん一人ひとりが自分の個性を一番発揮できる仕事をするのが、日本を活性化することにつながる」と語りました。



講演する青柳氏



地域における観光振興の可能性と示唆に富む講演でした

水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ

本学は50周年記念事業の一環として、内外から世界的に影響のある方、優れた研究業績を残された方などをお招きし、グローバル人材の育成に資することを目的とする水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズを展開しています。

本シリーズではこれまでに、元マレーシア首相のマハティール・ビン・モハンマド(Mahathir bin Mohamad)氏を皮切りに、米ハーバード大学名誉教授のエズラ・F・ヴォーゲル(Ezra F. Vogel)氏▽ノーベル物理学賞受賞者の小林誠氏▽スタジオジブリ代表取締役プロデューサー、鈴木敏夫氏▽日本経済団体連合会名誉会長の米倉弘昌氏▽国際浮世絵学会会長の小林忠氏▽米国・南カリフォルニア大学映画テレビ学部部長のエリザベス・M・デイリー(Elizabeth M. Daley)氏▽前文化庁長官の青柳正規氏▽安倍晋三内閣総理大臣夫人の安倍昭恵氏——の講演会を開催しました。

グローバルレクチャーシリーズ

「安倍昭恵氏講演会」を開催しました

2016年10月26日、安倍晋三内閣総理大臣夫人、安倍昭恵氏の特別講演会「女性活躍社会に向けて」を城西大学坂戸キャンパスにて開かれました。本講演は、水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズの一環として開催されました。

安倍氏は、1962年東京生まれ。1987年に安倍晋三氏と結婚。2011年の東日本大震災後に山口県下関市で無農薬のコメ作りを手掛け、2012年には東京・神田にこだわりの食材を使った居酒屋「UZU(うず)」を開店しました。このほか、ミャンマーの寺子屋への支援や女性のためのUZUの学校など教育や食の振興に力を入れています。

安倍氏は「色々な才能を持って輝いている女性を見ると羨ましいと思ったこともありましたが、今は、人はそれぞれ自分に与えられた使命があると思うようになりました。私の役割は人を繋げていくこと。人生にとって大切なことは“ご縁”と講演し、「第2の人生のスタート」として、50歳で結婚25年目の2012年に開店した「UZU(うず)」に触れ、店名は、天照大神(あまてらすおおみかみ)を天の岩屋戸(いわど)から誘い出した天鈿女命(あまのうずめのみこと)に由来すると紹介。「女性たちが殻を破って伸び伸びと女性の素晴らしさを生かして社会で活動していくことが、本当の意味の天の岩屋戸開きになるのではないかと思います」と述べました。また「今までにあるものだけを受け継いでいてはダメな時代。今までにない感性、感覚を取り入れて、色々なものが混ざり合うことによって大きな渦になり、そこから新しい社会が生まれるのでは」とも語りました。

2度目の総理夫人については「権力の中枢には届かない声がいっぱいあることが分かりました。『家庭内野党』と言われることもあります。主人は日本国民みんなの総理大臣。違う考え方の人たちの意見も主人に届けたいと思っています」と強調。最後に東日本大震災の復興事業で大規模な防潮堤の建設が進むことに疑問を呈し、「縦割り(行政)の弊害を変えていけるのは、女性の力ではないか。女性の活躍といっても男性に取って代わるのではなく、女性は女性で出来ることがたくさんあると思います」と結びました。

質疑応答では「時間を有意義に使う方法は」などとの学生の質問に、ユーモアも交えてお答えになり、会場は和やかな雰囲気に包まれました。



講演する安倍氏



学生代表から花束を受けた安倍氏



学生との交流も行いました

国際交流事業

V4(ヴィシェグラード4)「学生会議」「移民セミナー」を開催しました

中欧のチェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキアの4カ国は、各国間の友好と協力を進めることを目的とした協力の枠組みとして「ヴィシェグラード・グループ」を形成しており、グループの総称として「ヴィシェグラード4カ国(V4)」とも呼ばれています。日本でも「V4+日本」として、V4との対話・協力を推進しており、外務省が経済、環境、開発協力・エネルギー効率等のトピックスに関する各種セミナーを行ってきました。

そして本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界の様々な大学と積極的に国際交流を深めるなか、特にV4を中心とする中欧地域との教育交流を強化しており、今年も紀尾井町キャンパスにおいて、「V4+日本 学生会議」ならびに「V4(ヴィシェグラード4)+日本セミナー」を開催いたしました。

2016年11月30日「V4+日本 学生会議」

今年で3回目となる「V4+日本 学生会議」が、「世界語としての英語：日本とV4諸国への含意」をテーマに、東京紀尾井町キャンパスにて開催いたしました。

この学生会議は、V4諸国の駐日大使館が提携して政治的なテーマを選んで毎年開催されるセミナーと同様、お互いに交流を深める場として、大変貴重な機会となっています。

また開会にあたり、V4を代表して、チェコ共和国のミラン・スラネットス臨時代理大使より「科学技術面をはじめとして、日本は世界から注目されている重要な国。V4と日本の連携ならびにV4の学生が日本で学ぶための城西大学の協力を感謝しています。日本とV4諸国をはじめとするヨーロッパとの間に、より緊密な関係を築いていけることを願っています」と挨拶をいただきました。

今回の学生会議では、世界の言語における英語の優位性や、外国語教育の在り方などをテーマに、V4諸国における本学の提携校から来日した学生や本学の学生によるプレゼンテーションがおこなわれました。

2017年2月22日「V4+日本 移民問題セミナー」

学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス1号棟地下ホールにおいて「V4(ヴィシェグラード4)+日本」セミナーが、外務省、V4諸国、本学の共催により開催されました。セミナーには、外務省をはじめ、16カ国を超える駐日各国大使館員、各大学の研究者、マスコミ、本学関係者、学生、有識者ら、約70名が参加しました。

同セミナーを本学が共催で行うのは今年で5回目。今回はV4議長国であるポーランドからの提案で、「移民問題」をテーマとして実施しました。

セミナーの冒頭で、本学を代表して小野元之理事長代理の開会挨拶の後、滝沢求外務大臣政務官から日本政府を代表しての挨拶、それに続き、議長国のポーランドを代表してピョトル・ショスタック臨時代理大使が基調講演において、昨年は、V4発足25周年という歴史を刻んだ年でしたが、英国のEU離脱の影響などもあり、V4諸国も困難な局面を迎えていると述べました。

基調講演に続いて行われた各セッションにおいては、我が国及びV4諸国から参加した研究者の発表に続き、(1)現在の移民危機の原因(2)移民問題におけるV4の政策(3)日本から見た移民問題について、参加者との間で活発な意見交換が行われました。



V4+日本 学生会議も3回目を迎えました



基調講演を行うポーランドのショスタック臨時代理大使

スポーツ振興

城西大学・城西国際大学からオリンピックが誕生 

2016年8月5日～21日に行われた第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)に城西大学ならびに城西国際大学の在学学生および卒業生からオリンピックが誕生いたしました。

城西大学

城西大学からは、村山紘太選手(旭化成・2015年 経営学部卒業)、佐藤拳太郎選手(種目:4×400mリレー 経営学部4年)の2名が日本代表に選ばれました。

村山選手は本学男子駅伝部の主将だった2015年1月の箱根駅伝の2区で8人抜きの快走を見せ、シード権獲得の7位入賞に貢献するなど活躍しました。同4月、旭化成に入社。同11月には1万メートルで27分29秒69の日本新記録をマークしてリオ五輪派遣設定記録を突破、先月の日本選手権の1万メートルで2位となり、五輪代表選手に決まりました。

佐藤選手は、大学3年時の昨年度は、第94回関東学生陸上競技対校選手権大会(1部)の400mで優勝、第99回日本陸上競技選手権大会の400mで第2位など素晴らしい成績を収めました。

4年になった本年度は、第95回関東学生陸上競技対校選手権大会(1部)の400mで第2位、6月に開催されました第100回日本陸上競技選手権大会の400mで第5位となり、代表選手に選ばれました。

城西国際大学

本学卒業生の加藤友里恵さん(2009年 福祉総合学部卒業)が、リオデジャネイロオリンピックのトライアスロン女子代表に選出されました。

加藤友里恵さんは在学中、女子駅伝部に所属し、2005年に開催された第23回全日本大学女子駅伝対校選手権大会では総合第3位に入賞にするなど、中心選手として活躍しました。卒業後は実業団を経て、トライアスロンの選手として活躍しています。






ダルマに目入れした村山選手



左から3番目が佐藤選手



リオオリンピックでの加藤選手

競技	種目	氏名	学部・卒業年	競技結果
陸上	10,000m	村山 紘太  (むらやま・こうた)	2015年経営学部卒業	30位
	5,000m			42位
陸上	4×400mリレー	佐藤 拳太郎  (さとう・けんたろう)	経営学部4年	未出場
トライアスロン	—	加藤 友里恵  (かとう・ゆりえ)	2009年福祉総合学部卒業	46位

子どもたちとともに

土曜スクールを開催 

2016年9月3日、城西国際大学観光学部は、鴨川市の田原・長狭・小湊地区を対象とした「土曜スクール」を安房キャンパスにおいて開催しました。

2011年から始まったこの土曜スクールでは、地域児童たちの地元地域を愛する心の育成と健やかな成長を図ることを目的としています。そして保護者や地域の方々を中心となり、地域ぐるみで子供を育てようと様々な活動を行っています。城西国際大学観光学部での開催は4回目となり、大学の存在と意義を知ってもらう一つの機会となっています。

今回は、日本、中国、台湾、ベトナムの学生がスタッフとなり、小学生たちと一緒にダンスや鬼ごっこ、各国の伝統的な遊びを行いました。小学生たちは留学生と普段とは一味違う学習体験をし、お互いに楽しい時間を過ごしました。



地元の小学生たちと留学生の交流



各国の伝統的な「遊び」を体験

子育て支援ルームを実施 

城西国際大学の「子育て支援ルーム」では、就学前のお子さんと子育て中の保護者の方がゆったりと楽しく集える場を提供することを目的としています。

また、保育士・幼稚園教諭を目指す学生たちにとっても、子育て支援について理解を深めるとともに、実践的なトレーニングの場としてもまたとない機会となっています。

今回は、2016年11月18日から2017年1月13日まで合計4回を実施し、東金市近隣から延べ30組70名の親子にご参加いただきました。

9月からグループワークで子育て支援について話し合い、「親子で触れ合える活動とはなんだろう」「家庭でもできること、支援ルームだからできることをどんな風に組み合わせたらいいのだろう」と考え準備を進めてきました。

参加された保護者の方からは、一同に参加して良かったとの声を頂き、また年間を通じて開催して欲しいとの要望も出されるなど、参加した学生にとっても子ども達との触れ合いを通じ、実社会に出るための貴重な経験の場となりました。

福祉総合学部の子ども福祉コースでは今後もこのような場を設け、地域の子どもの健やかな成長を見守る事のできる環境を提供すると共に、学生達の学びの場としてのフィールドを広げていこうと考えています。



普段の学びを実践します



参加した保護者からも様々なご意見をいただきました

子どもたちとともに

横芝光町の小学生との交流会を実施 

2016年10月23日、9月から短期留学中のオスロ大学の学生14名が横芝光町の小学生との交流会に参加しました。はじめにハロウィン・リースの作り方のレクチャーの後、小学生のみなさんと留学生とが6つのグループに分かれて、皆さまざまに工夫を凝らし、個性的なハロウィン・リースをつくることができました。

その後、オスロ大学の留学生たちが、ノルウェーの子供の遊びを紹介して、みんなで遊びました。3種類の遊びを紹介しましたが、どれもノルウェーではよく見かけるものだそうです。ただ、子供たちに日本語で遊びのルールを教えるのは結構難しく、留学生たちはいろいろと苦労していました。工夫の甲斐あって何とか遊び方を日本語で伝え、一緒に遊びました。中には激しく走り回る遊びもあり、皆で楽しい時間を過ごすことができました。



ハロウィン・リース作り



ノルウェーの遊びの後、みんなで記念撮影

第4回川淵三郎杯 城西国際大学少年サッカー大会を開催 

2017年2月18日、「第4回 川淵三郎杯 城西国際大学少年サッカー大会」を千葉東金キャンパス 高円宮殿下記念スポーツパークで開催しました。

同大会は、スポーツを通して次世代を担う青少年の健全な育成に寄与し、スポーツを楽しみながら親睦と交流を図り、サッカーの普及・発展に努め、地域のスポーツ振興に貢献することを目的として開催するものです。山武郡市の少年サッカーチームが集い、川淵三郎杯をめざして熱戦を繰り広げました。

開会式では、川淵三郎氏より寄せられた「サッカーが上手になる一番の秘訣は、サッカーが好きになることです。そして自分の得意技を磨くことです。今日一日、友達と一緒にサッカーを楽しんで下さい」と選手を激励するメッセージが紹介されました。

今大会はトーナメント方式で行われ、昨年準優勝のFC.FRIENDSが見事初優勝を飾りました。



白熱した試合が展開されました

大会結果 優勝 FC.FRIENDS(大網白里市)
準優勝 横芝FC(横芝光町)
第3位 FCウイング(大網白里市)、みずほFC(大網白里市)

子どもたちとともに

交換留学生ら毛呂山町の保育園を訪問 

2016年11月16日、12月6日の二日間、V4諸国や韓国、ミャンマーから城西大学への交換留学生ら11名が埼玉県毛呂山町内の保育園を訪問し、園児らとゲームをしたり給食を一緒に食べたりするなど交流を行いました。これは、地域社会の発展と人材育成を目的として本学と毛呂山町とで締結している地域連携協定に基づき実施したもので、毛呂山町で幼児期から外国人や外国語と接する機会を提供して初期のグローバル教育を行うと同時に、本学の留学生にとっては、普段接触することのない日本の幼児教育の現場を体験し、子供たちを相手に日本語で伝える語学学習ともなり、双方にとって大変貴重な体験となりました。



留学生にとっても得がたい経験となりました

子ども大学にしているま開催 

今年度で4回目となる「子ども大学にしているま」が開催されました。

今年度も坂戸市、毛呂山町、越生町の小学校5、6年生、45名が集まり、授業や実験を行いました。

理学部教員からは、光の仕組みや酸素を液体に変える実験などを行い、熱心に実験に取り組みました。薬学部教員の授業では、においについての講義を受け、自分たちで練り香水を作る演習を行いました。においについての不思議や、どのように配合するといい匂いになるかなど、グループで討議し、試行錯誤していました。



子ども大学にしているま+液体窒素で凍らせる実験

子ども大学にしているまは、子供の学ぶ力や生きる力を育むとともに、地域で地域の子供を育てる仕組みを創るために開講しております。

子ども大学では、大学のキャンパス等を会場に、大学教授や地域の専門家等が講師となり、子供の知的好奇心を刺激する講義や体験活動が行われています。

成田国際高等学校で本学留学生と交流会を実施 

2016年10月12日に、本学留学生32名が千葉県立成田国際高等学校を訪問し、高校生と国際交流会を行いました。成田国際高等学校は、グローバルリーダー育成を目的としたスーパーグローバルハイスクールの指定を受けており、英語教育や国際理解教育に力を入れている高校です。今年で3年目を迎える交流会には、ノルウェー、ハンガリー、ポーランド、中国、カナダなどからの留学が参加しました。



グループに分かれてのディスカッション

全体会の後、グループに分かれて英語でお互いを理解し合う活動を行いました。(留学生はそれぞれ自国の文化や言語を高校生に紹介し、高校生の皆さんは日本文化を英語で紹介したり、また、ゲームなども一緒にしたりして交流を深めました。)初めは緊張した雰囲気の中で、双方ともぎこちない様子でしたが、活動が進むにつれて、グループのあちらこちらから大きな笑い声が沸き起こるようになり、最後にはすっかり友達になっていました。

英語習得や異文化理解には、「習うより慣れる」であると実感させられた一日でした。高校生にとっても、そして本学の留学生にとっても学ぶことの多い有意義な交流会となりました。

産・官・学連携

バロックジャパンリミテッドとの産学連携 

2016年4月11日、東京紀尾井町キャンパスで、株式会社バロックジャパンリミテッド(本社・東京都目黒区、村井博之社長)との間で「産学連携に関する包括協定」を締結しました。

同社は、2000年に創立して以来、「MOUSSY(マウジー)」「SLY(スライ)」など若い女性に人気があるブランドを擁し、現在は国内に340店舗、中国を中心に海外で160店舗を展開しています。今回の包括協定により、両者で産学連携・相互協力をおこない、経営情報学部が中心となって、新時代のファッション業界における人材育成に寄与していきます。

包括協定の締結に際して、村井社長は「当社は若い女性が主役となって自分たちが着たい服を作る、ということで成長してきた。若い学生の発信力に期待したい」と述べました。

今後は、同社でのインターンシップ教育の実施、社員・教職員の相互交流、学生の店舗でのイベント参加などを行っていく方針です。



今後の産学連携が大いに期待されます

千葉県立成東高等学校との教育提携を締結 

2016年3月9日、城西国際大学は、千葉県立成東高等学校と教育提携を締結しました。

今回の教育提携で、2017年度より、千葉県立成東高等学校の生徒を対象とした2講座を城西国際大学で開設します。具体的には、医療分野に関心のある生徒を対象とした「ヘルスケア基礎」(仮称)、国際分野に関心のある生徒を対象とした「多文化共生」(仮称)の2講座となります。

隣接した地域にある両校が教育提携することで、地域に根差した人材育成をより推進してまいります。



成東高校調印式

千葉県立農業大学校との教育連携協定を締結 

東金市に所在する千葉県立農業大学校と城西国際大学は、本学環境社会学部の開学を機に講師派遣・施設共同利用など教育連携を実施してきましたが、昨今の地方創生の機運に乗じ、教育連携協定を正式に締結することとし、2017年3月6日に調印式を行いました。

本調印式では、農業大学校の井垣実校長とJIUの柳澤伯夫学長が互いの協力と地域発展に向けた協働を誓いました。またご列席いただいた石橋清孝県議会議員と志賀直温東金市長からは、地域資源を生かした新たなブランド開発や地域人材育成に向けた協働、そして地域貢献活動に大いに期待を寄せられていると力強いエールをいただきました。

本協定締結を機に、農大生の微生物実験実習をJIU薬学部で実施するほか、ブルーベリーの成分分析を活用し商品化に向けた検討や農業担い手育成農支援などについて、協働していくことを約束しました。



教育連携協定調印式

産・官・学連携

第10回さくら祭り&ウォーキングin嶺岡林道 

2016年4月5日、創立者生家において「さくら祭り&ウォーキング」を開催しました。

開催に先立ち、生家横の見晴台において霞会館より寄贈された3本のソメイヨシノの苗木を植樹しました。

さくら祭りでは、長狭高校吹奏楽部によるミニコンサート、木更津総合高校による和太鼓部演奏、観光学部協力会による餅つきなどが行われるなど、学生と地域の方々が一体となって大いに盛り上がりました。

ウォーキングでは、女子駅伝部のサポートのもと、安房キャンパスから創立者生家までの約12キロを歩くコースを一般参加者とともに観光学部新入生が春の林道の風景を楽しみながら歩きました。



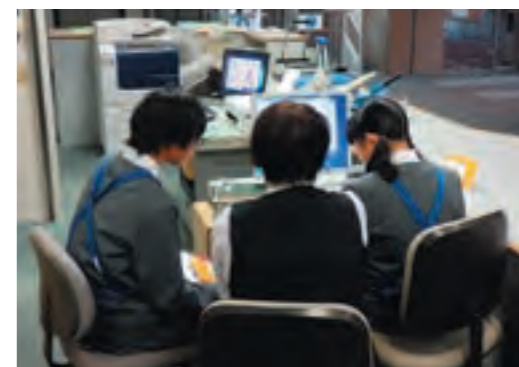
地域・来賓の方たちとともにソメイヨシノを植樹しました。パスから創立者生家までの約12キロを歩くコースを一般参加者とともに観光学部新入生が春の林道の風景を楽しみながら歩きました。

本学図書館での職場体験学習 

2016年11月1日-2日の2日間、千葉県の大網白里市立大網中学校の学生2名が、本学図書館で職場体験学習を行いました。

同中学では、総合的な学習及びキャリア教育の一環として、仕事を体験し、働くことの意義を考え職業観を身に付ける機会として職場体験を行っており、近隣事業者として、2014年度より本学図書館にて受入を行っています。今回の2名は、読書が好きで図書館を希望しました。

図書館では、大学図書館の概要と役割、施設設備の説明、資料の入力と検索の方法の説明、本及び雑誌の装備や登録と配架、図書の貸出・返却の実習と文献複写の方法とカウンター業務などに取り組みました。



新しい本の目録登録の仕方と仕組みの説明と実習を行いました。

JR東日本とのコラボ企画「駅からハイキング」を実施 

2016年10月30日、JR東日本のイベントである「駅からハイキング」が実施されました。このコースは、JR東日本と本学学生が協働で考案したもので、タイトルは、「かも〜ん鴨川! 一食×絶景×ウォーキング」です。鴨川の豊かな食材と自然を満喫しながらJR太海駅を起点に、城西国際大学観光学部を経てJR安房鴨川駅までのウォーキングを楽しむという企画内容です。コース作成にあたっては、学生自らがさまざまなコースを歩き、JR東日本や鴨川市役所等の意見を伺いながら手作りで作りしました。当日は、あいにくの小雨ではありましたが、コース上のいくつかのポイントで担当の学生スタッフが参加者をご案内いたしました。この日は、鴨川市の食を楽しむ「鴨川食フェスタ」も同時開催されており、鴨川市に多くのお客様が集まり、食と観光資源を大いに楽しみました。



駅からハイキング(受付)

産・官・学連携

奥武蔵 桂木ゆずのブランド化に向けて

本学は、毛呂山町と連携して「桂木ゆずのブランド化」を推進しています。

「桂木ゆず」とは、埼玉県 毛呂山町、越生町、ときがわ町で生産される柚子のことで、昭和初期には「桂木柚子」というブランドで東京市場に盛んに出荷され、昭和30年代には全国有数の産地となっていました。また、「桂木柚子」の生産者が、四国や東北地方の生産者に柚子の商業栽培法を伝えたとされています。

本学薬学部医療栄養学科では、薬学的見知から、桂木ゆずに限らずに食品機能性成分や香り成分の分析、骨代謝や脂質代謝に対する作用（健康への効果）などの研究を進めています。また、「自然環境」の保全の観点からも種子や果皮まで柚子を丸ごとペースト化しました。本学では、このペーストを利用した「ゆずゼリー」を開発しました。すでに、このペーストを利用したお菓子などが国内の食品メーカーから市販されています。

2016年12月18日には、薬学部医療栄養学科の食品機能学研究室と分子栄養学研究室の学生が、「もろやまげんき市」において、研究成果とゆずゼリーをPRしました。



桂木ゆずを使用した「ゆずゼリー」を開発

「道の駅と大学連携成果発表交流会」で成果発表を行いました

2016年3月3日、城西大学現代政策学部ならびに城西国際大学観光学部の学生たちが、国土交通省関東地方整備局・関東運輸局が主催する「道の駅と大学連携成果発表交流会」（さいたま新都心合同庁舎）において、「道の駅プロジェクト」の成果発表を行いました。

本プロジェクトでは、道の駅及び関係団体の協働のもと、道の駅を大学における実践教育の場と位置付け、「道の駅おがわまち」（城西大学現代政策学部）ならびに「道の駅 鴨川オーシャンパーク」（城西国際大学観光学部）を舞台に、両学の学生が主体的にそれぞれ活動を行ってきました。



地域の協力も得ながらプロジェクトを実施

活動概要

城西大学現代政策学部

和紙の町として知られる小川町。和紙の製造過程で廃棄される楮の葉と芯を使って、学生たちが道の駅で販売する小川町ブランド商品を開発。薬学部医療栄養学科とも協働し、カルシウムと食物繊維が豊富である楮の葉を利用し、その栄養効果を狙った地場産食品などを考案。

さらに、学生たちは、小川町に暮らす方々と交流しながら地域資源を発掘し、小川町の魅力を発信する地域プロモーション動画「小川町 心の旅」を制作。動画のコンセプトは、小川町の人と風土。季節ごとにテーマを設定した映像作品を制作し、インターネットで公開している。

城西国際大学観光学部

観光学部では道の駅を活性化させ、憩い空間としての機能強化をはかるべく、①「休憩機能強化」、②「回遊性の向上ならびに情報発信の強化」、③「イベント創出による満足度向上」の3つのテーマに取り組んだ。

学生たちは海辺にある道の駅という特色を生かし「レストランメニューのリデザイン」、「24時間休憩所の情報館化」、「クルージング企画」の企画ベースからの具体化につなげた。

次年度のプロジェクトでは、今回実施した企画を継続した実施に加えて今回明らかになった問題点を埋める形で、より最適化・ブラッシュアップされた企画を実施する。



道の駅発表会

産・官・学連携

住友化学株式会社ご寄付による日中連携大学院に3名の博士号取得者

2010年よりスタートした城西国際大学日中連携大学院において、本年度3名の学生が、大学院博士課程を修了しました。

日中連携大学院は、城西国際大学との連携大学である大連理工大学・大連外国語大学・東北大学の中国3大学とともに運営しているもので、中国の大学で既に日本語の語学の教職にある教員が、日本で働きながら博士号の取得ができる博士課程です。

住友化学株式会社は、中国と日本を繋ぐ人材育成に関わるこの大学院設置の趣旨にご賛同をいただき、長年にわたり、ご寄付をいただいております。

今後は、自国の教育研究に活かしていけるとともに日中の新たな架け橋となってくれることを期待しています。



学位記授与式

「ミャンマー交流・人材育成奨励制度」を設立

2016年7月26日、本学とミャンマーとの交流・人材育成のより一層の支援と発展を期待して、「ミャンマー交流・人材育成奨励制度」を設立いたしました。

これは、本学のミャンマーとの交流・人材育成方針にご賛同いただいた今泉清詞氏（今泉記念ビルマ奨学会会長）より大きな期待とご支援を本学にいただきまして、このたびの制度の発足となりました。

この「今泉記念ビルマ奨学会」は、今泉会長が第2次世界大戦中、ミャンマーにおいて苦境にあえいでいた際に、現地のミャンマー人たちが、自分たちの食べるものにも不自由していた中であつても食べ物を分け与え、助けてくれた温情に対する恩返しと、ミャンマーの若者の育成を目的として、1989年埼玉県鶴ヶ島市に設立されたものです。

この奨学会からの支援を得て、これまで博士号取得者25名を含め187名の奨学生が卒業して、ミャンマー、日本、第三国などで、各専門分野で活躍、現在も、ミャンマー国内で300名を超える学生に奨学を授与、学校・図書室建設などミャンマーの教育・人材育成支援を行っているとのことです。

本学は、この今泉氏の志を大切に、今後もミャンマーの教育・人材育成に力を入れてまいります。



国際教育・人材育成に向けた取り組みを推進していきます

埼玉県の「産・学・官」連携で誕生したハラル認証化粧品

薬学部では、マレーシアのManagement and Science University (MSU) と協同で、学生の相互受け入れや短期インターンシップの実施、研究活動を積極的におこなっています。

これらのプログラムから得た成果をもとに、2014年に埼玉県保健医療部薬務課、埼玉県化粧品工業会とともに「ハラル化粧品原材料等研究開発コンソーシアム」を設置し、ハラル化粧品の開発を進めてきました。以来、県内関連企業とも連携しハラル認証取得後の2016年8月、ハラル化粧品「Melati（メラティ）」を開発、販売しています。

2016年に訪日した外国人は前年比21.8%増の2,403万9千人とされ、過去最多となっており、なかでもムスリム人口の多い東南アジアからの旅行者は年々増加傾向にあり、近年では、本学薬学部および薬学研究科にも東南アジアからの留学生が多く入学しています。

ムスリム女性は、1日5回の礼拝時にメイクを落とすこと、ヒジャブで覆われていない部分の日焼け予防意識が高いことをふまえ、本学では今後も継続して、安心して使用できる商品の開発はもとより、さらに多方面からのニーズに応えられる化粧品作り、また機能性食品作り等を目指していきます。



今回開発したハラル化粧品「Melati（メラティ）」

地域との交流・連携

「里山プロジェクト」里山の哺乳類観察会の開催 

東金市の油井里山で「ときがねウオッチング」主催(東金市協働事業)の自然観察会の一環として、「里山で哺乳類の痕跡を探そう」というテーマで自然観察会が開催され、環境社会学部4年生の菅原将人さん(東京学館高等学校出身)が講師を務め、子供たちと保護者の方々と里山で哺乳類の観察をしました。

哺乳類は警戒心が強くまた夜行性の種も多いため、なかなか直接観察することができません。そのため、糞・毛・食痕・足跡・巣・匂いなどのフィールドサインと呼ばれる動物たちの残した痕跡で哺乳類の生存確認や食べているものなどを推測する調査方法があります。菅原さんは、卒業研究で様々な手段を利用して里山の哺乳類相を調べています。今回は、その経験を活かして、油井里山で子供たちと哺乳類の痕跡探しを行いました。

最初に油井里山で確認されている哺乳類について説明がありました。そのあと、皆で水田や草地を歩き回ると、タヌキの足跡、カヤネズミの巣、モグラ塚、中型の動物の獣道などが見つかりました。また最後に、赤外線カメラで移ったノウサギやアライグマ、タヌキの映像を見たり、紙粘土で作った糞を手にとったり、普段は見ることができない生き物を身近に感じた観察会でした。

菅原さんはこの観察会の講師をするために、何日も事前調査や準備を重ねてきました。自分が知っていることや経験したことを人に伝えることの難しさと、やりがいを感じた一日だったと思います。最後に里山で哺乳類を観察することの楽しさ、そしてこのような哺乳類が息できる里山環境の貴重さを真剣に子供たちに訴えかける姿が印象的でした。



学生講師による哺乳類の痕跡調査

セカンド・ハーベスト・ジャパンで留学生と共に炊き出しボランティア 

日本人学生と留学生が共に都内のフードバンクであるセカンド・ハーベスト・ジャパンでの炊き出しボランティアに参加しました。

活動は2日間に渡り、11名の学生(1月に学生5名、2月に学生6名が参加)が参加しました。

セカンド・ハーベスト・ジャパンは、食品会社だけでなく一般企業を含めた1,000社以上と提携していることから、大量の廃棄予定の食品が日々届けられています。集められた食品・食材から当日の炊き出しのメニューを決め、ボランティアたちがメニューに従い調理をしていきます。その後、調理した食品を上野公園にトラックで移送し、支援を必要している人々に直接手渡していきます。本学学生は、これらの一連の作業を他のボランティアの方々と共に行いました。

多数集まったボランティアのなかには、日本人だけでなく他大学などからの留学生も数多く含まれていました。すでに日本や母国でボランティア活動に従事したことがある学生もいましたが、大半が初めてのボランティア活動となったようです。

この活動に参加することにより、日本の社会問題について考え、食を通しての人と人との繋がりを感じた2日間となりました。



「炊き出し」には留学生も参加しました

地域との交流・連携

公開講座の紹介 

城西国際大学は、1992(平成4)年の開学と同時に、地域社会への貢献の一環として地域巡回型の公開講座を開講しています。この講座は、本学の研究成果を地域社会に還元し、さらに生涯教育にも役立つよう、本学をより身近に感じてもらうことを目的として実施しています。

本講座では、現代社会にふさわしく、また千葉県にも関係の深いテーマを設定しています。市や町の教育委員会と連携して、本学専任教員が数名のチームを作って主として週末に出講しておこなっております。開学25年目を迎えた本年度は、東金市、鴨川市、鋸南町、茂原市、御宿町、香取市の6会場において講座を行いました。地域のニーズに応えながら講座を企画・実施し、地域社会との新たな交流の場となっています。

今年は健康や薬の効果、歴史についてのテーマを希望する市町村が多く、本学教員による資料やパワーポイントを使ったわかりやすい講義に、受講者が熱心に聞き入っていました。

今後も地域社会に対する知の還元、地域社会との交流の場として、本講座のさらなる充実に努めてまいります。



原田恭宏先生による実演指導
(動きやすくなる運動をしよう)【香取市にて】

茂原市主催のがん予防市民公開講座で学生が発表 

2016年1月17日に、茂原市主催のがん予防市民公開講座が開催されました。女優の原千晶さんが「大切にしたい自分の体〜2度の子宮がんを経験して〜」というタイトルで講演をされ、約300名の市民の方が集まりました。

本学は共催団体のひとつとなり、看護学部の3つのゼミ活動グループが「HIV/AIDS」「月経困難症」「ハンドマッサージ」の学習成果をポスター発表し、また、33人にアロママッサージの体験をしていただきました。ナース服で参加した9名の学生は、ポスターに足をとめてくださる市民の方から多くの反応をいただき、もっと見やすく、わかりやすいプレゼンテーションについて学ぶ機会となりました。

御自身の患者経験の話を学生に話してくださる方や、「城西国際大学にも看護が出来たのね」「がんばってね」と声をかけてくださる方もいて、学生にもうれしい体験となりました。



学生によるハンドマッサージ

コミュニティカレッジの活動報告 

城西国際大学生涯教育センターは、地元地域の方々の学習意欲に応えることを目的として、2002年にコミュニティカレッジを開設し、以来、文化・教養・芸術などのテーマから、年間30講座以上を企画・運営しております。

このコミュニティカレッジは、大きくわけて、エクステンション講座、教養講座、健康講座の3つの講座から構成されており、受講生の皆さんの良い学びの機会となっています。

現在、東京紀尾井町キャンパス・安房キャンパスにおいても各種講座を開設しており、地域に開かれた生涯学習をさらに拡大し実践しています。

城西国際大学は、これからもコミュニティカレッジ講座を定着させ、地域社会に拓かれた大学として、地域に根を張り、生涯教育の学びの場として提供していきます。



語学上級クラス

城西国際大学コミュニティカレッジ <http://jiu.ac.jp/lifelong/community/index.html>

地域との交流・連携

シニアウェルネス大学の活動紹介 

城西国際大学シニア・ウェルネス大学は、城西国際大学の運動や健康を志向した教育活動の経験と蓄積、健康と福祉をはじめとする幅広い人的、知的資源に基づき、これからの地域社会が解決すべき課題に貢献することは、今日社会が求める大学の役割の一つだと考え、シニア・ウェルネス大学(以下本学)の開設に至り、現在までに約350名の卒業生を送り出してきました。

本学のプログラムは、健康・体力づくりのための一年次基礎コース・二年次実践コースを置き、前期13回、後期13回の年間26回の運動や食事、健康に関する講義・実技・実習を行います。一年次、二年次の修了時(卒業)には、大学生、大学院生と共に城西国際大学の学位記授与式(卒業式)に参列し、修了証をいただきますが、二年間を修了された受講生には「シニア・ウェルネス大学修了証書」として、学長より授与され本学を卒業していきます。その後、新たな学びの場として、城西国際大学へ入学し生涯教育を実践をしている方々もいて頼もしく思えます。

そんな中一年次基礎コースでは、健康・体力づくりをメインとし、自己の体力水準等を知る機会の提供、運動、スポーツの楽しさを体感するための健康づくり、技能指導などを受けていただきます。

具体的には、実技として健康、体力づくりの運動、楽しめるスポーツの実施、講義では健康、運動、栄養などを城西国際大学の教員及び専門の外部講師を招き講義、実技をしていただきます。

なお、本学受講生の特典として、指定された大学既存学部専門的講義を前・後期5科目まで受講(無料)ができ、二年間で原則30単位まで取得ができます。また、コミュニカレッジ講座の前・後期毎に一講座を受講(無料)することもできます。その他、水田図書館、美術館など、学内の施設を一部利用することも可能となります。

城西国際大学は、シニア・ウェルネス大学とおして、地域社会に拓かれた大学として、地域に根を張りこれからも生涯教育の学びの場として本学を提供してまいります。



シニアウェルネス大学のコマ

地域生物調査を実施 

環境社会学部では東金市公平地域の環境生物調査を行っています。居住地区の文化・環境・自然を守り、次の世代に受け継ぐ活動を行っている「美しい村 公平」との合同調査で、東金市家之子地区の水路と、「美しい村 公平」が整備・管理している「ピオトープ」の生物調査を定期的に行っています。

水路調査では、年間を通して水が枯れない場所があり、そこには数多くのメダカ(千葉県レッドデータブックに記載)が生息していることが判明しました。また、「ギンブナ」(千葉県レッドデータブックに記載)やモツゴ(別名 クチボソ:千葉県レッドデータブックに記載)とマドジョウの生息も確認できました。この水路には農薬が使われていないとのことであり、他の種類の生物も生息していると考えられます。

ピオトープ調査ではオタマジャクシを確認することができ、学生が捕獲したオタマジャクシ20匹を飼育した結果、ニホンアカガエルであることが判明しました。ニホンアカガエルは千葉県の最重要保護生物(環境省の絶滅危惧ⅠA類に該当)にランクされています。

東金市でも宅地の開発などが進行していますが、街外れには自然環境が残されています。千葉県レッドデータブックに記載されている多くの生物種も未だこの地域には生存していることがわかり、これらの生物環境を次の世代に受け渡すべく努力が続けられています。環境社会学部の学生たちは地域の方々との共同調査を行い、この地区の環境保全活動に力を注いでいます。



環境社会学部学生によるピオトープ調査

地域との交流・連携

「商店街活性化」グラフィティ・アートを実施 

2016年8月6日に鴨川中央商店街にて、「Design」空き家を「Re」するプロジェクトが実施されました。このプロジェクトは、鴨川青年会議所様からの全面バックアップにより本学部の講義である「観光プロジェクト」の一環として実施されました。

本プロジェクトの目的は、学生が自ら企画したイベントを空き家内で実施し、中央商店街の活性化に寄与することです。

学生たちは、グラフィティ・アートを用いて誰もが気楽に訪れることができる空間(ペイントハウス)を構築し、観光スポット化することを計画しました。この空き家は、空き家とアートの融合ということで「Akiyart House(あきあーと)@鴨川」と命名されました。空き家の中では、鴨川写真展を開催し、外では、外壁に落書きスペース、写真スポットを設置しました。

また、空き家の外では、学生自ら計画したじゃこカツバーガーを販売し、30食が45分で完売し、ドリンクとして考案されたはちみつレモンティー、しそジュースも大好評でした。観光客の周遊を促進するため、鴨川中央商店街内でスタンブラリーを実施しました。

観光学部ではこれからも、鴨川市の活性化に繋がる施策を考えていきたいと思えます。



グラフィティ・アートによる観光スポットに

『田間物語 第2章「リレーマラソン」』に参加 

2016年11月20日、東金市田間中央公園にて『田間物語 第2章「リレーマラソン」』が開催されました。今回で第二回目となるリレーマラソンは、天候に恵まれ、地域の方々と本学の100名を超える学生・教職員が出場し総勢約450名の参加となりました。選手宣誓は、ハンガリーとノルウェー出身の本学留学生。「リレーマラソン」はチームで参加し、一周1.5kmのコースを6周して襷を繋ぎました会場には、健康チェックブースや出店が並び、世代を超えた地域の方々とのふれあいのひと時となりました。



田間リレーマラソン

フードバンクちばに食品を提供 生活困窮者支援のために 

フードバンクちばは、千葉県内を中心とした福祉施設や支援団体、生活に困窮しているご家庭に食品支援を行っています。また被災地にも物資支援を行っています。NGO・NPO支援センターではこの食品支援活動に昨年度より賛同しており、今年も第12回フードドライブとして学内で食品回収し、フードバンクちばを介して県内の生活に困窮しているご家庭にお届けしました。また回収された食品がフードバンクちばを介してどのように支援を必要とするご家庭に届けられているのかを学ぶために、本学学生がフードバンクちばを訪問し、設立当初から現在までの取り組みや支援状況について聞き取りをおこないました。設立5年目を迎えたフードバンクちばでは、年々フードバンクが認知されていることや、2013年に生活困窮者自立支援法が施行され、その後、自立相談支援の窓口が県内全域に開設されたこともあり、相談件数や利用者は増えているそうです。また東金市にも同相談窓口としてNPO法人ちば地域生活支援舎がサポートセンターを開設されています。このことから本センターでは、今後も県内および東金市内での支援に向けて、引き続き学内の食品回収等を定期的実施していきます。



回収された食品の活用と支援状況を調査

地域との交流・連携

防犯パトロールと防犯警戒出動式 

本学では地域貢献活動の一環として、東金市および千葉県警察東金警察署の協力で、地域の防犯活動や交通安全に努めています。また、法の遵守や自己防犯を通して、自分が事件・事故を起こさない、事件・事故の被害に遭わないための取り組みも行っています。

2007年より「JIUパトロール隊」として、大学周辺の防犯パトロールや市内の駅や商業施設において防犯への啓発活動等も行っています。

12月12日には、山武緑の風大網店(大網白里市)敷地内において、「東金警察署管内年末年始特別警戒取締り出動式」に硬式野球部の学生が出席しました。

出動式終了後は、佐々木幸司東金警察署長、金坂昌典大網白里市長をはじめ東金警察署の皆さまや地域の防犯パトロール隊とともに、ベシア大網白里店敷地内において防犯啓発活動をおこないました。

今後も本学学生、教職員が一体となって防犯活動や交通安全への取り組みを積極的に続けていきます。



学生による防犯啓発活動

「城西大学読書感想文コンテスト2016」を開催 

水田記念図書館は、地域と連携し、若い世代が読書の楽しさ・素晴らしさを体験することにより読書が習慣化するように読書感想文コンテストを開催しています。

今年度は、部門1(中学生・高校生の部)は142名、部門2(大学生・短大生の部)は222名の応募があり、第一次審査から第三次審査まで厳選な審査の結果、グランプリ1名、準グランプリ1名、優秀賞8名が決まりました。



受賞者たちと

グランプリ	「女性の躍進のために」 熊谷紗希(城西大学薬学部薬科学科1年)
準グランプリ	「生まれて、やがて死ぬ」 岡田真阿(西武台新座中学校2年)
優秀賞	高橋泰地(川口市立領家中学校3年) 志村侑奏(西武台新座中学校2年) 三森甲誠(城西川越中学校3年) 木野目美咲(西武台新座中学校3年) 山本真海(城西大学薬学部薬科学科1年) 高橋未瑚(城西大学現代政策学部1年) 石井宥名(城西大学現代政策学部1年) 本田晏彬(城西大学薬学部薬科学科3年)

地域との交流・連携

九十九里コミュニティヘルスケア夏期セミナー2016を開催 

九十九里地域のヘルスケアに携わる人材育成とヒューマンネットワークの構築を目的として、「九十九里コミュニティヘルスケア夏期セミナー2016」が8月27日、28日の両日で開催されました。今年度は『今こそ「災害」の話をしよう ～ひと・まちを支えるということ～』をスローガンに、東日本大震災後、宮城県女川町の復興に取り組む、蒲鉾本舗高政の高橋正樹氏と被災地支援ボランティア活動を実施し続けている大里総合管理株式会社(大網白里市)の野老真理子氏にご講演いただきました。

フィールドワークでは、山武東金地区の行政、病院、高齢者施設、学校など地域の施設を訪れ、通常業務の傍ら熱心に災害時活動や防災活動に従事しているお話を伺い、セミナーの最後、この成果を共有し『ヘルスケアのまちづくり』の視点から討論を重ね『10年未来のまちづくり』を提案しました。



商店街活性化

「いきいき健康サロン」を開催 

看護学部では、昨年に続き今年度も「いきいき健康サロン」を開催しました。

今年度は公平地区求名駅前区と豊成地区上武射田の2カ所において、長寿会とシニアボランティア(JIUくじらクラブ)が主体となって開催し、看護学部教員と学生ボランティアは活動の内容をとともに検討し、実際の活動を支援しました。

豊成地区上武射田は、上武射田コミュニティ会館で2016年9月～2017年1月の期間2週間に1回、求名駅前区は公民館で2016年10月～2017年3月の期間に毎週開催しました。いずれのサロンもひと月に一回は本学で教員と学生ボランティアが中心となって開催し、学生は学食で昼食をとりながら交流を図り、その後生涯教育センターで口腔体操や認知症予防のためのゲームの企画、進行を行い、教員は健康相談を行いました。

11月17日の「いきいき健康サロン」では、理学療法学科の池田教授と大杉助教にご協力いただき、地域在住高齢者39名を対象に転倒予防を目的とした運動機能の検査を行いました。看護学部1年生～4年生の12名とシニアボランティア(JIUくじらクラブ)の方々が進行と誘導、検査補助を行いました。年明けの1月には検査結果が各人に渡され、日常の中で行える転倒予防のための簡単な運動を教えていただきました。予想以上に参加者が多く、地域在住の運動機能への意識の高さが窺えました。

次年度も引き続き、地域住民の互助による地域住民の健康寿命の延伸と豊かな暮らしの実現を目指し、看護学部は学生およびシニアボランティア、長寿会の方々とともに「いきいき健康サロン」を実施する予定です。



本学での運動機能測定風景



上武射田コミュニティ会館での健康体操風景



「いきいき健康サロン」の集合写真(豊成地区上武射田において)

地域との交流・連携

川まるごと再生プロジェクト「高麗川遊歩道」完成お披露目会

2016年11月4日、本学の「高麗川プロジェクト」が発端となった坂戸市や埼玉県などの「高麗川 川のまるごと再生プロジェクト」の高麗川右岸の遊歩道整備が完了し、それを祝しておひろめ会が開かれました。

おひろめ会には、本学のプロジェクトメンバーや「かわガール」、女子ソフトボール部、準硬式野球部、ラクロス部の部員たちをはじめ、地域の方々から約400人が参加。

本学卒業生の木下高志県議は、荒れた河川敷をきれいにしたという一人の学生の思いからプロジェクトが発し、2012年8月の事業採択のプレゼンテーションは感動的で涙を流したというエピソードを紹介。「城西大学が熱心に気持ちを込めて、この高麗川の自然を復活させる行動を起こしたことを賞賛したい」と述べました。また、プロジェクトの顧問だった白幡晶学長は「素晴らしい景色に変貌し、感慨無量です。今後も、地域とつながった新しい大学の活動として力を入れてやっていきたい」と語りました。



ごみを拾いながら歩き始め

国際交流フェスティバル「つるがしまルシェ」を開催しました

城西大学経済学部の学生が主催している「つるがしまルシェ〜若葉インターナショナルフェスティバル」。東武東上線若葉駅西口広場において地域の賑わい創出、多文化・多国籍を許容する地域コミュニティ創生を目的として、これまでに3回開催されてきました。

ステージでは世界8カ国のダンスや音楽が披露され、会場では世界9カ国のグルメ屋台が異国情緒を醸し出します。毎回2,000人以上が訪れる人気イベントとなっています。

何も資源を持たない学生たちは、趣旨を十分に説明しながら地元事業者の方々から協賛金をいただき、NPOや市役所などと交渉の上、必要な資材等を借り集めるなど、皆で知恵を絞ります。さら

に、出演者や出店者への説明会、保健所、消防署、警察署への許可申請や報告など、実に様々な体験をします。「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」といった学生たちの社会人基礎力養成にも有効で、能力開発・向上の絶好の機会にもなっています。



毎回多くの人たちが参加します

地域公共図書館との合同主催公開講座を開催

城西大学の水田記念図書館は、坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、飯能市、毛呂山町、越生町の公共図書館と相互協力提携を結び、様々な事業に取り組んでいます。その一つとして、2017年1月20日に第8回地域相互協力図書館合同主催公開講座「世界の中の日本、日本の中の世界-身近なグローカリズムを考える-」を開催し、85人が聴講しました。

講師の勝浦信幸客員教授(経済学部)は、移民、難民の困難な現状と日本の人口推移予測などを基に、外国人とともに生きる地域創生のあり方について話し、ゼミ学生の国際交流活動「つるがしまルシェ」などの事例も紹介しました。この講演の内容は教育家庭新聞(2月6日発行)にも掲載されています。



勝浦客員教授による講義

地域との交流・連携

「サムルノリin高麗2016」にまちづくりの学生が参加

2016年10月23日、高麗神社において「サムルノリin高麗2016」が開催され、城西大学経営学部からは「まちづくり」の講義を受講する学生たちが参加しました。

サムルノリとは、韓国を代表するチャンゴ、ケンガリ、プク、チンの4つの伝統打楽器を用いた演奏とパフォーマンスを意味し、今では1つの音楽ジャンルとなっています。その大本は、1978年、韓国に伝わる高句麗時代から伝統的な放浪芸を母体に、金徳洙、李光寿、崔鍾実、(故)金容培の4人で作られた韓国が世界に誇る伝統打楽器集団を指します。

日本でも、1984年10月に芝の増上寺で衝撃的なデビューを飾「サムルノリ」の演舞り、1986年には高麗神社で「86サムルノリ in 高麗」が実施されました。その時から30年を経た2016年は、「高麗郡建郡1300年」という記念すべき年にあたることから、それを記念して「サムルノリin高麗2016」を開催することになりました。

公演当日、学生たちは、公演委員会のメンバーや地域の方々と協力しながら公演の準備や本番の入退場の管理、警備の手伝いなどを行いました。また、第2部の「パンクッ」では、舞台から下りたサムルノリのメンバーとともに観客と学生たちが一体となって踊りと演奏が行われました。

学生たちは、この公演に参加したことで、高麗郡を開拓した先人たちの想いが悠久の時を超え、地域の人々に連綿と受け継がれていることを直に感じるだけでなく、サムルノリのメンバーを通して日韓交流もすることができました。この活動を通して、学生たちは、城西大学経営学部が目指す「グローバルな視点とローカルな視点を持ったマネジメントのプロフェッショナル」に一歩近づいたといえるでしょう。



ローカルヒーロー「リベレスパーJ」活動中!

地域振興、福祉の新しい活動として注目される「ローカルヒーロー」。その数は全国で200を超えます。経営学部の石井龍太研究室では、ゼミナールの学生達と共に「ローカルヒーロー」を調査・研究し、インタビュー誌『ローカルヒーロー通信』を発行しています。

そして研究した内容をもとに、ゼミたちが実際にヒーローに変身し、地域のイベントなどで活躍しています。ヒーローによる地域貢献を通じ、ゼミ生の総合力を磨きます。シナリオ、音響、デザイン、アクションまで学生たちが中心になり、本格的な仕上がりとなっています。

現在は第二世代ヒーロー「リベレスパーJ」が活動中です。リベレスパーJは、大学生が超能力で変身した姿。巨大武器「鬼ヶ島」を操る豪腕の戦士です。高等教育を破壊し、若者の自由と未来を奪おうとする怪人達に挑戦します。



シナリオ、デザイン、アクションまで学生たちが中心となっています

国際人材の育成

卒業生社長を迎えてエグゼクティブセミナーを開催しました 

2016年6月14日にエグゼクティブセミナーを東京紀尾井町キャンパスにて開催しました。1998年城西国際大学大学院人文科学研究科修了生であり、現在株式会社RSテクノロジーズ代表取締役社長の方永義氏を講師に迎えて、「日系3世・方永義の激動の半生から学ぶ経営哲学—会社設立からM&A、そして上場企業オーナーへ」というテーマでご講演いただきました。

方社長は起業した経緯と着眼点、夢を持つ大切さについて語り、日本経済を支えてきたのは、企業数の99%以上を占める中小中堅企業が有するモノづくりの高い技術力であり、今後の日本再生のために、その競争力の強化と事業継承を支援していきたいと述べました。



講演する方社長

介護福祉コースの学生とベトナム介護福祉士候補生の交流会 

2016年7月7日に、福祉総合学科介護福祉士コースの1年生とEPAベトナム人介護福祉士候補者※(以下、EPA研修生)との交流会が、幕張国際研修センターで開催されました。EPA研修生は、介護福祉士の資格取得を目指すために来日されています。お互いに初対面でしたが、同じ介護福祉士の資格取得を目指すという共通の目標がある中、交流会では本学の学生が授業の中で制作したレクリエーションをEPA研修生と一緒にするなど有意義な時間を過ごしました。

EPA研修生の皆さんは研修の中で学んだ歌(見上げてごらん夜の星を・いい日旅立ち)を日本語で発表され、温かい交流の時間を過ごしました。

最後は全員で「幸せなら手をたたこう」を歌い交流会は終了しました。



同じ目標をもった「仲間」との相互交流に、一層気持ちも引き締まりました

「世界遺産研修」国際ウェ이터レースに参加 

観光学部では毎年5月に、観光立国としての地位を確立しつつあるマレーシアで観光の取り組みを学ぶことで、観光を学ぶ意識づけをするとともに、観光産業における英語の重要性に気づきを与えることを目的に、新入生全員を対象とした世界遺産研修を実施しています。

今回はイポーで開催されたマレーシアホテル協会主催の国際ウェ이터レースに参加することができました。トレーに載せた食器を倒さないように運び、速さを競うもので、シンガポールやインドネシアなどASEANの国々から約500名の参加がありました。

このイベントは、イポーが観光都市として国際的な認知度を高めるためのマーケティング戦略の一環で行っているものということも、学生たちは実際に参加し、体験しながら学びました。



ウェ이터レース(女性の部)

学生の活動

韓国・東西大学校との共同制作映画「コッチばあちゃん」 

本作品は、学校法人城西大学と東西大学校(大韓民国)の創立50周年を記念し、両大学の学生たちが製作に携わりました。

1930年代に韓国・済州島から千葉県鴨川市にやって来た海女と、その血を受け継いだ日本の女子大学生と釜山からの留学生との出会いを中心に、100年にわたる家族のつながりを描いた作品です。映画製作の準備は2015年10月から始まり、学生たちは20世紀から約100年の日韓の近代史を研究し、インターネットを利用したWeb会議を重ね撮影に臨みました。

監督は、城西国際大学メディア学部の中川冬馬さん、女子大学生役には同学部の井上佳奈さん、韓国からの留学生役には東西大学校のキム・ホドンさんが決定。そして、主演のコッチばあちゃんには、ブルーリボン助演女優賞を受賞した女優、宮下順子さんを迎えました。

真夏の安房鴨川で厳しい暑さに耐えながら、製作を通して日韓の学生たちは大きな絆で結ばれました。ロケーション撮影においては、鴨川市役所を始め、市立図書館、地元の旅館や民宿、そして城西国際大学の観光学部から全面的な協力を得ました。

また、鴨川市に実在する済州島出身の海女のお墓がある寺院や地元の名所、観光地を取り上げたことで、国内はもちろん、韓国においても多くの人々に広く安房鴨川を知ってもらう機会にもなりました。



「コッチばあちゃん」ポスター

メディア学部クロスメディアコースの学生記者が「特別賞」を受賞 

2016年9月26日、千葉県内の7大学の学生が、学生記者として千葉日報の紙面づくりに参加する「CHIBA University Press」において本学メディア学部クロスメディアコースの学生たちが取材した記事が、「特別賞」を受賞しました。

記事では、東金市内に在住する和笛職人の方や、山武地域の郷土料理である太巻き寿司などの話題を「山武郡市に根付く伝統文化にスポット」としてまとめました。地域の伝統文化を受け継ぐ方たちを具体的に取上げたことが高く評価されました。

メディア学部では企業との連携や、コンテストへの出展などを積極的にこなっており、実践的なスキルを身につける教育を展開しています。



学生記者特別賞_萩原社長より特別賞を授与

課外活動団体が東金市より社会体育優良団体として表彰 

2016年10月9日に東金アリーナ陸上競技場で行われた「第63回東金市民体育祭」において、課外活動団体が「社会体育優良団体」として東金市より表彰状を頂きました。

表彰されたのは女子剣道部、女子ソフトボール部、柔道部の3団体で、団体・個人において全国大会に出場するなどの輝かしい成績を残しており、また地域の清掃活動や子ども達との交流なども積極的に行っています。

当日は志賀東金市長よりそれぞれに表彰状が手渡され、激励のお言葉を頂戴しました。

今回表彰いただいた事を励みに一層努力し、地域貢献運動にも積極的に取り組んでまいります。

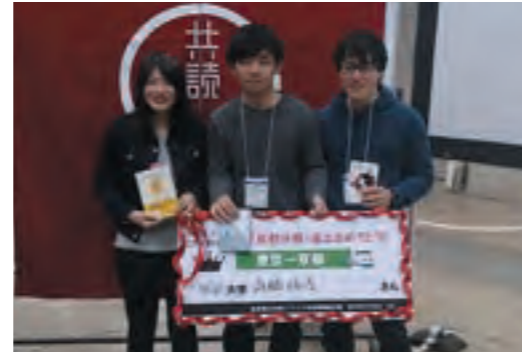


社会体育優良団体表彰

学生の活動

薬学部4年生が「全国大学ビブリオバトル～京都決戦～」に出場

水田記念図書館は、読書推進活動として毎年「全国大学ビブリオバトル予選会」を開催しています。2016年度は予選会に出場した20人の中から4人が関東地区決戦へと進み、チャンプとなった薬学部薬学科4年の高橋佑太さんが、12月18日に京都大学時計台ホールで開催された「全国大学ビブリオバトル2016～京都決戦～」に出場しました。高橋さんは、これまでの練習と実践の成果を発揮し、紹介した小川洋子著『猫を抱いて象と泳ぐ』には多くの投票の手が挙がりました。また、高橋さんは11月6日に行われた坂戸市立図書館主催「秋の図書館まつり ビブリオバトル坂戸図書館」にも出場し、見事チャンプを獲得しました。



ビブリオバトル高橋君

【彩の国連携力育成プロジェクト】Interprofessional Work (IPW) 実習報告会を開催

2016年8月25日、ウエスタ川越にてIPW実習の報告会が行われました。

IPW実習は、城西大学、埼玉県立大学、埼玉医科大学、日本工業大学の県内4大学が共同で取り組んでいる「彩の国連携力育成プロジェクト」の連携科目のひとつで、4大学の学生が保健医療福祉の現場で患者や利用者、地域が抱える課題を通して連携や協働を学ぶことを目的としています。



今年は8月22日から24日にかけて県内の13施設で実習が行われ、25日には実習3日間の成果を発表する報告会が行われました。城西大学からは薬学科5名、薬科学科1名、医療栄養学科16名、計22名の学生が参加しました。

報告会では、チームで考えたケアプランやチーム形成の様子などについて発表と活発な意見交換がなされました。

『リレーフォーライフジャパン2016川越』に今年も城西大学チームが参加!

2016年9月17日～18日の2日間、がん制圧に向けた世界共通のチャリティーイベント「リレーフォーライフジャパン2016川越」(於:川越水上公園、<http://rfl-kawagoe.com/>)に「城西大学チーム」として、薬学部、経済学部および現代政策学部の学生、教職員、総勢222名が参加しました。



がん細胞は24時間眠りません。このことから、本イベントでは開会式から閉会式まで24時間“たすき”をリレーしながら歩きます。リレーフォーライフの3つの使命は、がんの告知を乗り越え、○生きていることを祝福し(祝う Celebrate)、○旅立った愛する人たちのしるし(しのぶ Remember)、○がんに負けない社会を作る(立ち向かう Fight Back)ことです。

城西大学は、2015年より埼玉県および川越市と共に本イベントの共催になりました。学生達はイベント会場の準備や片づけ、ルミナリエキャンドルの設置など、運営ボランティアとしてもイベントをサポートし、実行委員会の皆様からも大変頼りにされています。我々城西大学はリレーフォーライフジャパン川越になくてはならない存在になっています。学生にとっても、教職員にとっても、様々なことを考えさせられる非常に意義のある2日間でした。近い将来、医療人になる薬学部の学生達、地域社会に貢献する経済学部、現代政策学部の学生達には、大変良い経験になったと思います。

学生の活動

「Josai Global Café」を開催しました

城西大学・城西国際大学では様々な国際教育プログラムを実施しています。そうした様々なプログラムの補完的役割となることを期待して、それぞれの分野において一線級で活躍されている方々をスピーカーとしてお招きし、様々なトピックでお話してもらう「Josai Global Café」を開催しました。

ここでは、身近なトピックから世界潮流の読み解き方までを、コーヒー片手に気軽に話し合い、単なる知的感動にとどまることなく、現在進行形で進んでいるボーダーレスな社会において必要となるイマジネーションを高めることを目的としており、これからの未来の社会の担い手にふさわしい国際感覚が身につけられるよう、年間をとおして様々なカフェシリーズを開催しました。



ミシェル・ローバック氏「ヨーロピアン・カフェ」

2016年4月8日「ヨーロピアン・カフェ」

ミシェール・ローバック氏(スウェーデン大使夫人)
<http://www.josai.jp/news/2016/20160408.html>

2016年6月7日「スウィーデッシュ・カフェ」

カール・グスタフ・エクランド氏
(ヘガネスジャパン株式会社代表取締役社長)
<http://www.josai.jp/news/2016/20160607.html>



カール・グスタフ・エクランド氏「スウィーデッシュ・カフェ」

2016年6月24日「アイリッシュ・カフェ」

風呂本武敏氏(元・神戸大学教授)
<http://www.josai.jp/news/2016/20160624.html>



風呂本武敏氏「アイリッシュ・カフェ」

2016年9月7日「Creative France」

エリック・ハーツラー氏
(フランス・パリ東大学クレティユ校教授)

2016年10月11日「My Global Life」

ポール・シャロウ氏(米国・ラトガース大学教授)
<http://www.josai.jp/news/2016/20161011.html>

実践IPE 地域におけるチームケアの実践

城西国際大学では、医療福祉専門職を養成する福祉総合学部・看護学部・薬学部の三学部が協同し、「専門職連携教育(Inter-Professional Education; IPE)」を展開しています。

この『実践IPE』は、昨年同様6つのフィールドの協力を得て、3学部の学生がチームを組んで実地研修に臨みました。超高齢化が進展し、地域包括ケアが重視されるこの時代にあって、在宅や施設における高齢者支援に対するチームケアの実践こそが、実践IPEに相応しいと考え、在宅診療に尽力されている診療所の先生方を中心に、研修先として受け入れをお願いしました。



グループワークの様子

文化・スポーツ・メディア振興

国際現代詩イベントを開催しました 

学校法人城西大学は、創立50周年を記念し、城西大学国際現代詩センターを設立いたしました。
ここでは、詩がいかに関係、価値体系、政治、そしてアイデンティティに意味をもたらすのかを明らかにし、また学生の教育と知的なものを見方を豊かにするため、様々なイベントを開催しております。

国際現代詩シンポジウム「詩と幼年時代」

<http://www.josai.jp/news/2016/20160701.html>

2016年7月1日、国際現代詩シンポジウム「詩と幼年時代」を開催しました。高旭東(Gao Xu Dong) 中国人民大学教授による魯迅をテーマにした講演会に加え、日本と中国の現代詩人による座談会と朗読会で、詩人や研究者、教職員、留学生、日本人学生ら約160人が聴き入りました。

今回のイベントを通じて、日中両国に蓄積された知の活用と両国間の研究ネットワークの強化などが期待されます。

午前中は高氏が「魯迅 第一作目の小説における日本との関係性」と題して講演、午後の座談会と朗読会に移りました。参加した詩人は中国側が、楊克(Yang Ke)、梁晓明(Liang Xiao Ming)、樹才(Shu Cai)、華清(Hua Qing)、从容(Cong Rong)、田原(Tian Yuan)の6氏。日本側が、宇佐美孝二、竹内新、新延拳、野村喜和夫、三角みづ紀、水田宗子の6氏が登壇しました。

国際現代詩シンポジウム「俳句と現代詩のあいだ」

<http://www.josai.jp/news/2016/20160916.html>

2016年9月16日、国際現代詩シンポジウム「俳句と現代詩のあいだ」を開催しました。当日は、芥川賞作家で詩人の多和田葉子氏の特別講演に加え、日本の第一線で活躍する著名な俳人と詩人による座談会によって、二つのジャンルの間に広がる表現の空間について語り合いました。詩人や俳人、作家、市民の方々約160人が興味深いテーマのシンポジウムに聴き入りました。

多和田氏は「だぶる文字、かさなる声」と題した特別公演の冒頭、語学や文法、言語をあしらった「川柳もどき」(多和田氏)を披露して会場の笑いと拍手を受けました。

シンポジウムには、高橋睦郎(詩人)、高野ムツオ(俳人)、神野紗希(俳人)、田原(詩人・翻訳家、城西国際大学客員教授)の4氏が登壇しました。

第2回チカダ賞記念国際シンポジウム

<http://www.josai.jp/news/2016/20161118.html>

2016年11月18日、「第2回チカダ賞記念国際シンポジウム」を開催しました。スウェーデン政府が生命の尊厳を表現する東アジアの詩人に贈呈しているチカダ賞にちなんだシンポジウムで、2014年6月7日の第1回に続く開催となりました。海外を含めた歴代受賞者をはじめ、日本の著名な詩人の方々が登場、「生命の尊厳を表現すること」をテーマに論議を深めました。興味深い各セッションの議論と朗読に詩人や市民の方々、留学生を含む学生、教職員ら約160人が聴き入りました。

今回の登壇者は、以下の方々でした(登壇順)。

- ラーシュ・ヴァリエ(Lars Vargö)氏= 前駐日スウェーデン大使・俳人
- 北島(Bei Dao)氏= 中国・第7回受賞者・詩人
- 文貞姫(Moon Chung-hee)氏= 韓国・第5回受賞者・詩人
- イー・ニー(Y Nhi)氏= ベトナム・第8回受賞者・詩人



詩と幼年時代



俳句と現代詩のあいだ



第2回チカダ賞記念国際シンポジウム

- 高橋睦郎氏= 詩人
- 谷川俊太郎氏= 詩人
- 水田宗子氏= 第6回チカダ賞受賞者・詩人
- 吉増剛造氏= 詩人

文化・スポーツ・メディア振興

詩歌賞「帰路賞」の授賞式を開催しました 

学校法人城西大学は2017年1月27日、日本で学ぶ留学生を対象にした詩歌賞「帰路賞」の授賞式を東京紀尾井町キャンパス3号棟で開催しました。本学は一昨年12月、創立50周年を記念して国際現代詩センターを設立。帰路賞は、同センターの取り組みの一環として創設しました。思潮社の協賛、毎日新聞社とジャパンタイムズ社の後援をいただきました。

賞の名称は、詩人でもある水田宗子・同センター所長の詩集「帰路」にちなみしました。日本で学ぶ外国人留学生(大学生・高校生、年齢不問)が対象で、昨年7月から11月まで募集期間中、多数の応募がありました。

国際会議場で行われた授賞式で、水田所長は「皆さま、これからも詩を書き続け、さらに私どもを驚嘆させ、うならせる作品を書いていただきたい。この賞によって日本の現代詩に一つの新たな方向が出てくることを期待します」と挨拶。選考委員を務めた詩人の高橋睦郎、平田俊子、野村喜和夫の3氏が講評。高橋氏は「本当に素晴らしい作品がたくさんあり、読ませていただいて刺激を受けました」と述べました。奨励賞5名、佳作7名に賞状などが授与され、作品「シネポエム」で奨励賞に輝いた早稲田大学文化構想学部のアンドリュー・カンパーナさん(カナダ)が受賞者を代表して「国の間の壁が作られている時代にも、新たな詩的な道が切り開かれています。私たちは詩の道を歩み続けて精進していくつもりです」と受賞の喜びを語りました。その後、出席した受賞者による詩の朗読が行われました。



代表挨拶の後、朗読するカンパーナさん



受賞者、関係者による記念撮影

「帰路賞」受賞者

受賞	受賞者(国籍)	作品名	所属
奨励賞	アンドリュー・カンパーナ(カナダ)	「シネポエム」	早稲田大学文化構想学部
奨励賞	ヨナス・エンゲスヴィーク(ノルウェー)	「クラインの壺」	城西国際大学人文科学研究科
奨励賞	トルバラ・アデリナ(ウクライナ)	「百万本のバラの街」	城西国際大学メディア学部
奨励賞	青竹(本名・羅麗傑)(中国)	「水」	城西国際大学人文科学研究科
奨励賞	肖博倫(中国)	「雪があさつてに降るとのことだ」	城西大学現代政策学部
佳作	ネーメト・ヴィヴィエン(ハンガリー)	「幽霊」	城西大学経営学部
佳作	陳璇(中国)	「巨人の足跡」	北海道大学文学研究科
佳作	バンズィ・アニタ(ハンガリー)	「星空」	城西国際大学メディア学部
佳作	黄曉双(中国)	「曼珠沙華」	東京大学総合文化研究科
佳作	劉沐暘(中国)	「空へ落ちる」	城西国際大学人文科学研究科
佳作	屠沖(中国)	「カブリッチオ」	東京ワールド日本語学校
佳作	陳璐(中国)	「風」	東京外国語大学

文化・スポーツ・メディア振興

第16回 水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会を開催 

2016年12月26日、千葉東金キャンパスの城西国際大学スポーツ文化センターで城西国際大学創立25周年「第16回水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会」を開催しました。

男子決勝は本大会3連覇を目指す大成高等学校と3回目の優勝を目指す桐蔭学園高等学校との対戦となり、桐蔭学園が勝利し、通算3回目の優勝を果たしました。

女子決勝は、初の決勝戦進出となる夙川学院高等学校と2回目の優勝を目指す桐蔭学園高等学校の対戦となり、夙川学院高等学校が勝利し、初優勝となりました。

本大会は創立者の水田三喜男先生が柔道に「いそしんでいたこと」にちなみ2001年にスタート。現在では全国の強豪校が集う大会として年末の風物詩となっています。これからも千葉県高校柔道の発展、全国の高校柔道の交流の場を提供していきたいと考えています。



柔道大会

大会結果	【男子の部】	優勝 桐蔭学園高等学校(神奈川県)	【女子の部】	優勝 夙川学院高等学校(兵庫県)
	準優勝 大成高等学校(愛知県)	準優勝 桐蔭学園高等学校(神奈川県)	準優勝 富士学苑高等学校(山梨県)	
	第3位 木更津総合高等学校(千葉県)	第3位 富士学苑高等学校(山梨県)	第3位 創志学園高等学校(岡山県)	
	崇徳高等学校(広島県)			

第16回 水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会を開催 

2017年2月5日、「第16回 水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会」を千葉東金キャンパス スポーツ文化センターアリーナで開催しました。

本大会は学校法人城西大学創設者である水田三喜男が志した文武両道の精神を受け継ぎ、心身の優れた人材育成をめざしておこなわれています。

大会結果は男子が第8回大会以来の優勝を目指す水戸葵陵高等学校と第3回大会以来の優勝を目指す東海大学浦安高等学校の決勝戦となり、水戸葵陵高等学校が通算3度目の優勝を果たしました。女子は、通算2度目の優勝を目指す東奥義塾高等学校と通算3度目の優勝を目指す阿蘇中央高等学校が決勝戦に進出し、東奥義塾高等学校が4年ぶり2度目の優勝を果たしました。

また本大会には、男子の部に韓国選抜チームが2チーム参加し、日本の若き剣士たちと鎧を削りました。今後も、剣道を通じた国際交流を図りたいと考えています。



剣道大会

大会結果	【男子の部】	優勝 水戸葵陵高等学校(茨城県)	【女子の部】	優勝 東奥義塾高等学校(青森県)
	準優勝 東海大学浦安高等学校(千葉県)	準優勝 阿蘇中央高等学校(熊本県)	準優勝 東海大学菅生高等学校(東京都)	
	第3位 市立習志野高等学校(千葉県)	第3位 東海大学菅生高等学校(東京都)	第3位 米沢中央高等学校(山形県)	
	阿蘇中央高等学校(熊本県)			

建築賞受賞

多数の建築賞を受賞しています

❖ 鋸南セミナーハウス

2005年度 第12回 千葉県建築文化賞「景観に配慮した建築物」
2006年 第32回 東京建築賞建築作品コンクール「優秀賞」

鋸南セミナーハウスは創立35周年を記念して、城西大学同窓会の協賛もいただき2004年に建設されました。

その心地よさと周囲の景観にふさわしい建物であることが評価され、千葉県建築文化賞と東京建築賞において「優秀賞」を受賞しました。



❖ 鋸南セミナーハウス

❖ 城西大学 経営学部棟

2008年 米国建築家協会 Merit賞

城西大学経営学部棟は、米国建築家協会(AIA: American Institute of Architects) ニューヨーク支部より、2008年度メリット賞を受賞しました。

AIAは2008年度にはじめて教育的な建物(2001年1月11日以降完成の建物)についての部門を設け、その栄えある第一号を経営学部棟が受賞しました。



❖ 城西大学 経営学部棟

❖ JIUランドスケープデザイン

1996年 日本建築学会賞
2006年度 日本造園学会賞

城西国際大学では、自然景観と調和したキャンパスを目指してきました。そのランドスケープデザインに対し、「端正な中にも透明感と伸びやかさ」がある「成長するキャンパス」との評価を受け、日本建築学会賞と日本造園学会賞を受賞しました。



❖ JIUランドスケープデザイン

❖ 旧水田家住宅

2003年度 第10回千葉県建築文化賞

地域の特性や周囲の環境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出したことを評価され第10回千葉県建築文化賞を受賞しています。



❖ 旧水田家住宅(母屋)

❖ 城西大学水田美術館

2012年 米国建築家協会Merit賞
2013年 アーキタイザー・アワード特別賞

城西大学水田美術館は、米国建築家協会ニューヨーク支部より、AIANY Design Awards2012のMerit賞を受賞しました。

また、インターネットによる世界最大の建築物のコンペティション「アーキタイザー」より、2013年アーキタイザー・アワードの特別賞を受賞しました。

本美術館は、学校法人城西大学45周年記念事業として建設されたもので、大学所蔵の美術品展示のみならず国際交流・地域交流をさらに発展させる芸術・文化の拠点です。



❖ 水田美術館

❖ JOSAI I-HOUSE 東金グローバル・ヴィレッジ

2016年 グッドデザイン賞

この建物は、留学生と日本人学生との交流というストーリーを持つことで、コミュニケーションとしての装置となっています。また外観のみならず、細かに配置された空間デザインも大いに評価され、グッドデザイン賞2016を受賞しました。



❖ JOSAI I-HOUSE 東金グローバル・ヴィレッジ

美術館

2016年度 水田美術館の展覧会・講演会

水田美術館における2016年度の活動をご紹介します。

【城西国際大学水田美術館】

◆メディア学部メディア情報学科 クロスメディアコース卒業制作優秀展2016

会 期：4月12日[火]～23日[土]

内 容：メディア学部の「情報・映像・デザイン・サウンドを複合的に学び、新しいメディアのかたちをつくる」という基本コンセプトに沿って研鑽を積んできた学生達が、4年間の成果を発表しました。

◆JIUコレクション I 浮世絵と近代木版画 II 5人の現代作家

会 期：I 5月17日[火]～6月11日[土]、II 6月21日[火]～7月16日[土]

内 容：開館 15周年を迎え、内容が充実してきた城西国際大学 (JIU) コレクションを紹介。I では、房総風景やゆかりの人物を描いた浮世絵から、大正期以降の新版画、創作版画まで、多彩な木版画をご覧いただきました。II では、吉増剛造の写真作品、銅版画家・柳澤紀子の《水邊の庭》シリーズ、洋画家・福島誠の初期作品、スウェーデンのエヴァ・ヴァリエの紙による織物作品、絵本作家・森洋子の詩集挿絵原画を紹介しました。

関連企画：ギャラリートーク (当館学芸員による展示解説) 5月21日 [土]、6月25日 [土]

◆銚子・円福寺コレクション 近代日本画展

会 期：9月20日[火]～10月15日[土]

内 容：飯沼観音として知られる銚子の古刹・円福寺の第四十二世住職が収集した近代日本画コレクションより、平野五岳、野田九浦、小川芋銭らの作品を紹介しました。

関連企画：ギャラリートーク (当館学芸員による展示解説) 10月1日 [土]、8日 [土]

◆北斎の弟子 昇亭北寿 洋風風景画の展開

会 期：11月5日[土]～12月3日[土]

内 容：昇亭北寿は名所絵ブーム以前に、洋風風景画を専門的に制作したユニークな浮世絵師。透視図法、陰影法を使用し、地平線が低く沸き立つ雲が印象的な作品を制作しました。ペロ藍使用前のつづ草や本藍による青の色調、ぼかし表現など、おなじみの北斎・広重の作品とはひと味違う、新たな風景版画との出会いをお楽しみいただきました。

関連企画：講演会 11月12日[土]

ギャラリートーク (当館学芸員による展示解説) 11月19日 [土]、26日 [土]



美術館

【城西大学水田美術館】

《特別展》

◆酒本雅行木彫作品展

会 期：6月28日[火]～8月27日[土]

内 容：2014年学校法人城西大学に寄贈された彫刻家酒本雅行 (1946～2013) の木彫作品を坂戸キャンパスで初めてご紹介。酒本は、東京藝術大学で彫刻を学んだ後、グループ展や個展を中心に、日本や海外のギャラリーへの出品も行うなど、2013年亡くなるまで制作活動を続けてきました。本展では、木材が持つ柔らかさと強さを活かしながら、鉄や電球といった人工物と融合させ、新たな表現世界を造り出す作品をご覧いただき、彫刻家として常に木と対峙し続けた酒本作品を緑溢れる坂戸キャンパスでお楽しみいただきました。

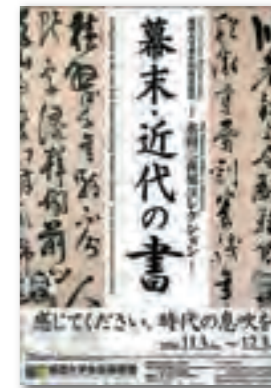
◆城西大学創立50周年記念 水田三喜男コレクション 幕末・近代の書

会 期：11月3日[木]～12月3日[土]

内 容：鴨川市所蔵の水田三喜男コレクションの中から、渡辺崋山、西郷隆盛、大久保利通といった幕末から昭和中期頃まで活躍していた高名な人物らが手掛けたとされる遺墨をご紹介し、浮世絵コレクターとして知られている、水田三喜男のもうひとつのコレクションをお楽しみいただきました。併せて、出品資料の人物について紹介するパネル展示も行い、理解をより深める展示となりました。

関連企画：講演会 11月12日[土]

ギャラリートーク (当館学芸員による展示解説) 11月19日[土]



編集後記

2016年度版学校法人城西大学社会貢献活動報告書をお届けできることを大変うれしく思います。本学がこの1年間に取り組んださまざまな社会貢献活動をキーワードごとに分類して紹介しておりますので、どうぞご覧ください。

2008年に初めて社会貢献活動報告書を作成して以降、毎年の作成作業を通じて、学校法人全体として活動内容を把握してその意義の確認をするとともに、反省や工夫を次年度に活かすことができいております。

今後も大学を取り巻く方々との連携を取りながら、より一層の地域・社会・国際貢献活動に取り組んでまいり所存です。

この報告書により、城西大学・城西国際大学・城西短期大学の社会貢献活動にご理解をいただくとともに、皆様からの忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

学校法人城西大学 法人本部 社会貢献推進チーム・社会貢献活動報告書作成チーム